



中国の戦略

— 対外金融業務規制緩和の本質 —

金融アナリスト
永山卓矢

[中国、金融規制緩和に動く]

トランプ米大統領はベトナム・ダヤンでアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議の出席に先立って日本をはじめアジア3カ国を歴訪した。そこでの最大の焦点は、言うまでもなく今月8~10日の中国への訪問であった。

この訪中については、中国側が周到に準備をして「國賓以上」の待遇でトランプ大統領を歓待。うまく“籠絡”したといった解釈が主流である。貿易不均衡の是正を求めるトランプ大統領に対し、中国側は米国的主要企業との間で全部で34件、総額2,535億ドルもの商談を、大統領が立ち会っているところで成立させた。

ただし、この大型商談のほとんどは拘束力がない覚書(MOU)に過ぎない。正式に契約を取り交わすには更なる詳細を詰めた交渉が必要であり、それには数年もの長期に渡る交渉が必要な案件もある。中国側ではその対象が国有企業であるだけに共産党政府の意向が優先され、米中間の関係が悪化すれば合意が反故にされる事もあり得る。いわば、この商談はトランプ大統領が今回の訪中の成果を本国の有権者に示す“ショー”であり、それに中国側が協力したものだ。

とはいえる、米国側は今回のトランプ大統領の訪中に先立って盛んに中国側を攻撃していたようだ。実際、北朝鮮はミサイル発射に向けた動きを示していたものであり、米国側も水面下での交渉で通商法301条の発動や、中国の幾つかの銀行を米金融システムから遮断すると脅していたという。そこで米中間で合意されたのが中国国内の金融業務に対する外資規制の緩和であり、中国側はこれを首脳会談の際ではなく、トランプ大統領が中国を離れた直後に発表した訳だ。ただ、この合意は「米国の勝利、中国の敗北」といった単純な図式で説明出来るものではない。

[主導権は欧州系ではなく米系財閥が握る]

中国は16年10月に人民元が国際通貨基金(IMF)の特別引き出し権(SDR)の構成通貨に採用された事で事实上、資本取引の自由化に動く責務を負う事になったが、頑なにそれを果たそうとせず、その時期も明示してこなかった。FRBが資産縮小や利上げに向けて動いている中では常に資本流出からバブル崩壊が進んでいき、人民元相場にも強力に売り圧力がかかる恐れがある。そうした時に自由化に動けばそうした動きに拍車をかけるだけでなく、それにより国有銀行や代表的な国有企業が次々に外資に買収されていく危険性が高まるからだ。

特に欧州ロスチャイルド財閥は当初、習近平国家主席が提唱している「一带一路」構想に相乗りしてインフラ関連の金融仲介業務を請け負っていき、ユーラシア大陸に巨大な経済圏を構築しようとした。しかし、中国が天文学的な債務を抱えている実態が明らかになってきた事でひとまずそれを諦め、米ロックフェラー財閥と提携して保護主義的な性格が強いトランプ政権の樹立に動いた。この政権の性格を利用して中国を追い詰め、表向き厳しい貿易・通商交渉を展開しながら、水面下で資本取引の自由化や国際会計基準の導入を受け入れさせようとしてきた。それにより中国そのものを“乗っ取った”うえでユーラシア大陸の構築に向かおうとしている。だとすれば、今回の中国による金融業務の対外規制の緩和は欧州系財閥の望み通りかといえばそうではなく、むしろその反対である。

今回の金融業務の規制緩和では、外資系金融機関は中国系企業との合弁会社の出資比率が現在では過半を握れない事になっているが、証券は20年に、生保も22年に全額出資が認められるようになる。また肝心の銀行については既に全額での出資が認められているが、直接的に中国資本の銀行への出資規制も現在では25%までに制限されているものの、これを年内に撤廃する事になった。

それにより、制度面では外資が完全に買収する事も可能になるが、実際には中国の金融当局の認可が必要であり、それが簡単に認められる筈がない。

さらには、日本では90年代に時価会計に基づく国際会計制度が導入された事がバブル崩壊に拍車をかけ、幾つかの大手金融機関が破綻していき、一部は外資に破格の安値で買収されてしまった。中国ではこれまで、国有や民間を問わず多くの企業が不正会計に手を染めており、海外でドル資金を調達して「偽装輸出」で中国に持ち込んで人民元に換え、売り上げに回すといった“インチキ会計”が慢性的に行われてきたので、国際的に透明性の高い会計制度が導入されれば、それこそ惨憺たる状況に陥るのは必定である。ところが、今回は国際会計制度の導入が見送られているので、バブル崩壊が進んで金融危機が起り、多くの国有銀行が破綻していく状況にはなりそうもない。

[習近平が国有企業改革に取り組むメドが立つ]

ではどうして今回、米国が要請に基づいて中国側も規制緩和に動く事に同意したのかというと、中国で10月18~24日に開催された共産党大会で習主席が強大な権力を握った事が大きく関係している。この党大会では「習近平思想」が党規約に盛り込まれ、幹部人事についても政治局員やその上の常務委員の多くが自身の系列で占められた。習主席としては毛沢東以来となる共産党主席を復活させてその地位に就く事が出来なかつたが、それでも自身による「一強体制」がさらに強まり、強権的な専制権力体制が一段と強化されたのは間違いない。

それにより、習主席はこれから国有企業改革に大胆に取り組む事が出来るようになる。中国では極端に大きな過剰債務や過剰設備の問題、すなわち国有銀行の潜在的に膨大な不良債権を処理していく事が今後の経済成長を推進していく上で、また危機的な状況に陥るのを回避する上で非常に重要である事は論を待たない。これまで、中国ではたびたび信用不安に見舞われてきたが、最も巨大な不良債務(=国有銀行の不良債権)を抱えているのが国有企業なのだから、その改革をいかにして推進していくかが非常に大きなカギを握るのは当然のことだ。

これまでそれにあまり着手出来なかつたのは、その規模があまりに巨大すぎて安易に手を付けると危機的な状況に陥りかねなかつたからだ。ただそれだけでなく、国有企業の上層部には共産党の幹部が就任しており、その利権が複雑に入り組んでいる事もその一因だ。だからこそ習主席が専制権力体制を一段と強化した事が大きな意味を持ってくるのであり、ようやくある程度の処理を推進していくメドが付いたところだ。

米国側で習主席と最も親密な関係を築いており、実質的にそれを“操っている”的が、米系財閥直系のブラックストーン・グループのシュワルツマン最高経営責任者(CEO)。この人物が今回、裏側で米国側との交渉の仲介役を担い、また習主席に対して助言や勧告をする事で実質的に操った事は当然考えられるところだ。

中国としては国有企業改革に取り組むにあたり、それにより顕在化する不良債権を処理するノウハウがないだけに、どうしても外資を導入しなければならない。そこで米権力者層としては、欧州系財閥による露骨な買収を避けながら、米系財閥の系列の金融資本を中心に必要な部分だけを取り込んでいく事で、中国が“破滅”に向かわずにそれなりに生き永らえさせていくというものだ。

米系財閥は基本的に中国を「悪の帝国」に仕立てて「新冷戦」構造に持ち込もうとしている。そこでは、米系財閥としては欧州系財閥が目論んでいるような買収工作を繰り広げる事を望んでいない。また、中国経済が破局に向かうとそうした構造も構築出来なくなる事からそれも好ましくない訳だ。

永山卓矢の「マスコミが触れない国際金融経済情勢の真実」

詳しくはこちらへ→<http://17894176.blog.fc2.com/>

ピ・テクニカル

第5波への上昇に備える

日経平均株価は16日21972の安値を付けた後、反発しているが、上値が重い感じだ。波動理論から考えれば、9月8日からの上昇波が何らかの第3波であるなら、現在は第4波に相当する。この波がトライアングルかレクタンブルなら、調整期間はやや長引くかもしれない。前者なら安値は既に11月16日で付けている。ただ高値更新には時間がかかる恐れがある。一方、a-b-cの3波調整ならもう一度下落して安値を更新、通常のリトレースメント38~62%押しレベルの21,310±490を狙う可能性がある。しかしこの調整が終了すれば第5波の上昇が到来する。その時は28,000円以上の目標が設定されよう。

目前は1年サイクルが9月にボトムを打っているなら、筆者は強気型サイクルを想定しているので、9月安値を下抜くことはない。またその過程で生じた週足チャートの2つのギャップを埋めることはないだろう。従って今回a-b-cの調整波が発生しても、最初のギャップゾーン(21,503~21,614)はサポートされると考える。

今週のいち押し

利食いは早く

先週頭にドイツの連立政権樹立協議決裂の報道が流れユーロ/ドル相場は急落。ただその2日後に再度大連立復活で政局の行き詰まりが解消する可能性が報じられると急反騰。週後半はユーロが買われたというより、ドルが売られたと表現した方が良いかもしれない。24日の高値は9月22日以来の高値水準を記録。以前からの“10月高値以上の引け値にストップロスを入れて売り参入。ストップアウトしたら損切りドテン買いを推奨したい”というアドバイスに則って買い転換している。

ユーロ/ドルの年初来高値は9月8日の1.2091。先週24日の高値が1.1943。その差は0.0148で実現不可能な水準ではない。ただ、ここで懸念材料がある。スイスフランの動きだ。

本来ならばスイスフラン/ドルのチャートを用意すべきだがドル/スイスフランのチャートしか用意できなかった。ただ、並列で見ると逆相関の動きになっているのが判る。

アストロカレンダー

永井 元

小池新党が負けて、安倍さん一派が勝った。

これは言葉の戦いであったともいえる。小池氏は「排除」という表現を使った。安倍さんは、つい少し前、街頭演説でやめろコードが出た時、感情的になり、「こんな人たち…」という言葉を発して自ら失言と認識したに相違ない。

今回の選挙では、慎重な言葉遣いばかりであった。北朝鮮問題が表面化し、国難を突破するのは自民党しかないと国民を半分脅しながら、優しい言葉で取り組み、たまたま野党側が失言で失敗した。うまく運んだようだ。

安倍さんのバックに、物の道理がわかる特殊能力者がいるような気がする。批判されながらも、こんなに長く続く政権は珍しい。

安倍さん個人が、卓越した政治力を保持しているとは言えそうにない。いったい、誰が指南しているのか興味深い。

それにしても北朝鮮はどうしたのかというほど静かになった。

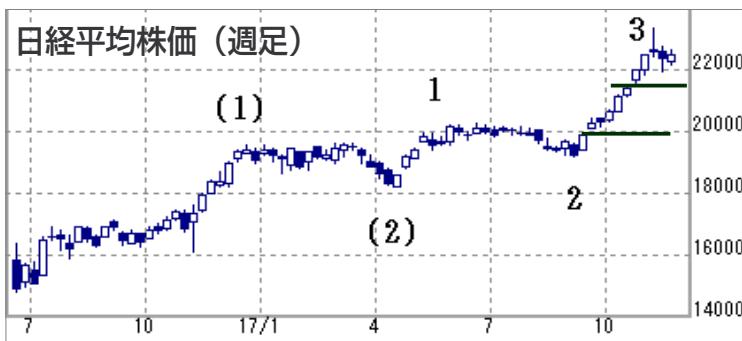
お金がないのか、緻密な策略の中か、真相は闇だ。

横田めぐみさんを始め、拉致被害者が帰って来てほしいものだ。この問題をお互い政治利用する動きだが、平和裏に解決するなら、ブラックマンデーも起こらないか。ただ、今の高値圏はいざれば、しつけ返しになるような気がしてならない。

週間足でこのギャップを埋めて引けるようであれば、強気にとては大きな懸念になる。それまでは強気で対処したい。

調整がトライアングルでも、a-b-cによる3波の下げであっても、買い捨てる。ストップは2万円割れ引け値に設定する。次の高値目標値は先週述べた如く $23,482 \pm 508$ 。

なお今後2週間で高値を更新する急激な反騰が到来するようであれば、逆に警戒を要する。それはウエッジ系になる恐れがあるからだ。しかしそのフォーメーションの気配はない。



このチャートでスイスフランは11月1日にピークを迎えたがユーロは11月7日の安値から反騰開始。つまり異市場間強気ダイバージェンスである。筆者は、今回弱気ダイバージェンスが出現するのではと予測している。現在のポジションはその兆候が出るか、15日の高値を引け値で割り込むまで温存し、実際にそうなった場合は手仕舞いして売り転換を推奨したい。

今週末は水星逆行。合言葉は「利食いは早く」である。



アストロカレンダー 12月 永井 元

	天文現象	注目マーケット		天文現象	注目マーケット
1 金	火星・天王星180度		16 土		
2 土			17 日	金星・火星45度	
3 日	水星が留から逆行を開始	全マーケット	18 月	新月 月赤緯最南	全マーケット
4 月	満月 月最近	全マーケット	19 火	月蝕遠	
5 火	月赤緯最北	穀物	20 水		
6 水			21 木		
7 木	水星・火星60度 火星・土星60度	アニバーサル	22 金	冬至	全マーケット
8 金			23 土	水星逆行終了	全マーケット
9 土			24 日		
10 曜	下弦		25 月		
11 月			26 火	上弦 金星・土星会合	
12 火	月赤道通過	為替・小豆・ゴム	27 水	月赤道通過	為替・小豆・ゴム
13 水	水星内合		28 木		
14 木			29 金		
15 金	水星・金星会合	アニバーサル	30 土		
			31 日		

今週の相場風林語録

大きな流れに逆らうなーが原則である

人生も流れ、時代も流れ、逆らうのはつまらない。

今週の九星★波動

南雲 紫蘭

間もなく月盤変更

株式市場もドルも強気 — そんな気分がなぜか居心地の悪い相場となっています。ドル円は111円台を伺い、株式市場も急落。材料はアラブだ、税制改革の行方だ — などとされていますが、正直言えは、年末に向けたポジション調整という事でしょう。特にヘッジファンドは好調で、ドルロング、株ロング、円ショート、債券ショートというわかりやすいポジションで利益が出たため、それらのリスクを落としにかかっていると思われます。では彼らは利食いをした後、年初から買ってくるのか。

それは、年末までの相場を見て考えるのだろうと思われますが、現時点では「幻想のように信じ込んでしまっているポジションは危険」というほかないので、と思います。冷静に考えれば、年初から比べれば、株式市場もドルも割高のままで金利は上昇傾向です。いくらゴルディロックス相場とはいえ、年末のボラティリティ上昇には十分ケアしたほうがいいでしょう。

相場指南道場

トレーダーあそなろ物語 (422)

中原 駿

客家はシンガポールの中国人 — 現地式に言えば華人 — 全体の7.4%に過ぎない。

客家人は「中国人の中のユダヤ人」ともされる集団で、金融・質店や漢方薬店の経営のほか、教師、医師、弁護士、政治家など専門的知識を必要とする職業へ進むことが多い。

ルーツは不明だが、中国最初の統一王国であった殷（商）の末裔ともされ、まだ古代中国語に最も近い言語を喋るともいわれている。

また、集団としてはまとまりに欠け、その一方で天才的ともされる。

シンガポールの初代首相であったリー・クアンユーが、客家である事はよく知られている。

第六感の
目

右肩下がりの歪な三尊

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

ドル指数も同様の三尊系

先週のドル円相場は21日112.71まで反発した後、週末に向け111円台ローまで下落（東京市場）。三尊形成を想定していたが、10月16日の左ネック111.64を下抜けた。ただここで右ネック形成なら、右肩下がりのネックラインが引ける。やや歪な三尊系となるが、誤差範囲内。ここから反発して112円台まで持ち上げるなら、右肩形成となろう。現段階ではユーロドルほど、きれいな三尊形成ではない。

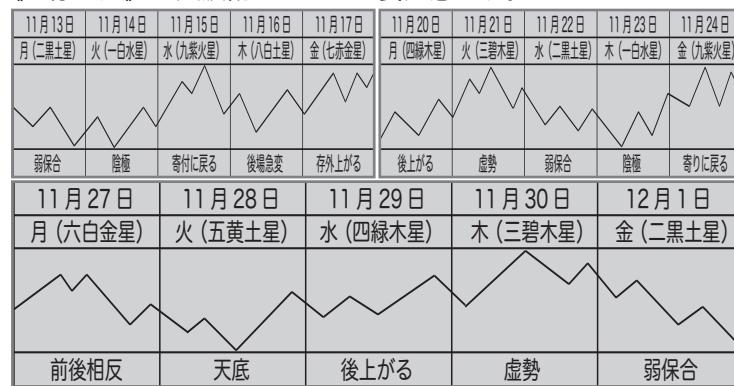
ここでドル指数のチャートを見ると9月安値を付けて以来、11月まで反騰し現在は下げに転じている。ここでも三尊系が朧気ながら、見え隠れする。92.5前後までにサポートされての反発は右肩狙いとなる。このフォーメーションでは最終的には三尊形成から次にネックラインを下抜けると9月安値に対するダブルボトム系が想定される。

このドル安が円高をもたらすと、ドルが戻した後、再度下落してドル円は110～109円台もありえるということになろう。そこでサブサイクルがボトムを打つかを注視したい。

先週のストラテジーは残りのドルのロングを手仕舞いしたが、次の通り述べた「全ての投資家は3ポイント上値抵抗をブレイクしたところから買いを狙う。まだサブサイクルのボトムは確認できていない」。この上値抵抗は115円前後に存在。ただ逆張りでロングを仕掛けるなら110円割れを待ちたい。こ

さて九星は月盤《八白土星》も終盤に入っています。

「後半急あり」という星、前半が上昇ならば後半調整、前半が調整ならば後半は上昇。前半の上昇から後半はよもや、という下落リスクがある、と指摘してきましたが、その通りの展開です。相場は急落後、12月は安定を見越しますが、時に新月盤《七赤金星》は大波乱もあるので要注意です。

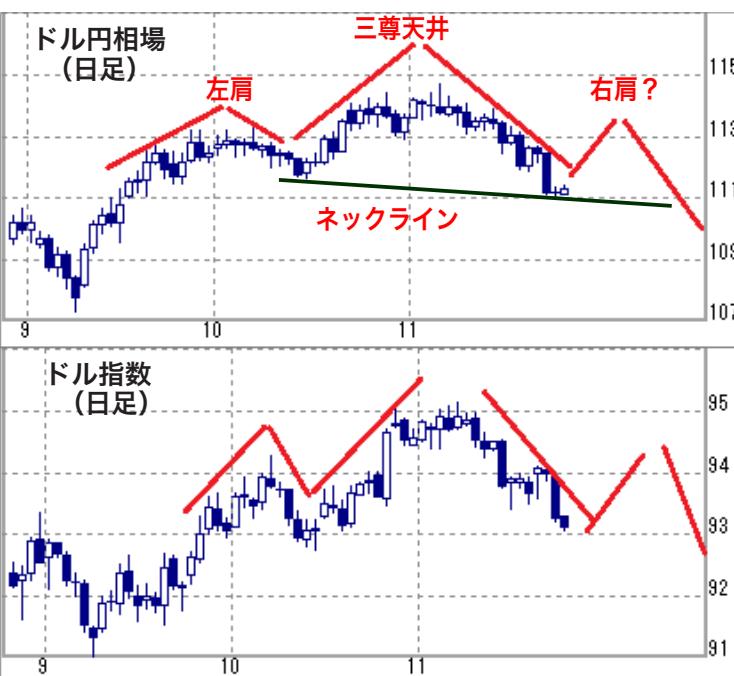


シンガポールにいると、現地華人の色分けはあまり意識しないが、かつてのシンガポールでは同じ華人同士でも、異なった方言集団との交流は少なかった。

19世紀から20世紀の前半にかけて、華人の間では方言集団別の「棲み分け」が見られていた。トマス・スタンフォード・ラッフルズが英国の植民地としてシンガポールを開拓した際、中国人の出身地域別による差異に注目し、彼らを別々に居住させる政策をとったからであった。

その後も方言集団別の棲み分けは20世紀後半まで続いた。また、華人社会は地縁的、血縁的な結びつきが強く、一般に「会館(huiguan)」という形態をとり、会館は主に地縁的組織である同郷会館、血縁的組織である同姓会館、同業的組織である同業会館の三種類からなっている。華人にとって会館は、自衛機関であると共に、重要な相互扶助機関としての機能を果たしていたのだ。

のレベルは過去7カ月のレンジ下限部分に相当する。このレンジ相場は今年2月に始まり、史上最大の長さになっている。下手をすれば来年2月末まで続く恐れがある。その前に3ポイント上値抵抗を突破（115円以上）すれば、何も考えずに買うしかない。短期投資家は今週112円以上があれば113.80以上の引け値にストップを置き、1円以上の下げを狙ってショートするのも良い。その後はドテン買いを狙う。



サイクルだけ話します。

—メリマン・サイクル理論 備忘録—

【第67回】ユーロ／ドル相場のサイクルについて（8）

1カ月ユーロ／ドルの長期サイクルについて書きましたが、結論は現行16.5年サイクルの起点が本年1月3日の安値であったという事になります。前回の当欄では、前の16.5年サイクルが99カ月サイクルで2分割されているという見方が出来、第1～99カ月は33カ月サイクルで3分割。更にこのサイクルは11カ月サイクルで3分割されている事から、起点から11カ月目に入ろうとしている現行16.5年サイクルが近日中に第1～11カ月サイクルボトムをつける可能性を提示しました。

11カ月サイクルのレンジは9～13カ月。週に換算するとおよそで39～56週。メリマン氏の分析におけるユーロ／ドルのプライマリーサイクル（PC）は23～37週。従って11カ月サイクルの中にPCが1～2個入る見方になります。

実は、先週の相場変動で第1～11カ月サイクルが底打ちした可能性が出て来ました。これまで1月3日の安値から32週目の8月14日にPCボトムをつけ、次のPCボトムで11カ月サイクルボトムが来るという見方がなされていましたが、1月安値から44週目にあたる11月7日に1.1554まで下落後、

メリマン通信 —金融アストロロジーへの誘い—

水星逆行シャドウ期から本番へ

毎度お馴染み、水星逆行の時間帯に入った。当欄執筆時点で丁度1週間前になる。往々にして、逆行1週間前から相場は荒れ模様になりやすい。相場以外では政治的な発表や経済データで矛盾するものが飛び出したり、古くはオバマケアなど水星逆行に決定した法律は後に変更を余儀なくされる事になりやすい。日本では先週、築地から豊洲への移転について都知事が会見していたが、星回りから見ると後々変更を余儀なくされるだろう。

水星逆行は米国時間12月2日（日本時間3日）から始まるが、地球から見た現在の水星の運行速度は、逆行に向けてどんどん遅くなっている。この逆行の前後の時間帯をシャドウ期と呼び、近年はこの時間帯も相場の節目として注目すべき時間帯になっている。これに関連して、先週は次の通り述べていた“19日の火星・冥王星スクエアは12月1日の火星・天王星オポジション（180度）と対の関係。これは広義の天王星・冥王星スクエアへ

予約受付中！

フォーキャスト 2018

「サイクル」「アストロロジー（占星学）」「テクニカル」の3本柱で市場経済を読み解く分析集団、MMA（メリマン・マーケット・アナリスト）主宰、レイモンド・メリマン氏による年間予測本。2017年の目玉であった天体位相による「ザ・グレートリセット」は、2018年の世界を、そして市場をどのように動かしてゆくのか…。

レイモンド・A・メリマン著 秋山日瑠香・投資日報編集部 訳
発行：投資日報出版 定価：8,100円（税込・送料別）

お問い合わせ
お申し込みは：**投資日報出版（株）**まで

〒103-0013 東京都中央区人形町3-12GRANDE人形町6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444

相場は急反騰を始めたのです。もしこの見方が正しければ、今週は第2～11カ月サイクルにして新PCの4週目。サイクルの序盤は強気なので近日中に年初来高値を更新し、先週予測した1.41コースも夢ではありません。

しかし、9月高値を突破する前に11月7日の安値を割り込むと見方は真逆になります。恐らく現行PCの起点は11月ではなく8月になります。現行PCならびに11カ月サイクルは恐らく2～3月頃に到来する筈です。目先は、この高安値に注目しておくと良いのではないかでしょうか。



の火星トランスペリューションだ。更に重要なのは木星・海王星トライイン発生から約5時間後、射手座の29度で水星逆行が始まる（日本時間で3日の16時35分から）。以前から記述のように、水星逆行は開始日、中間点、逆行終了日、シャドウ抜けの時間帯が相場の転換になりやすい。更に逆行1週間前から相場変動が荒くなる傾向がある。今回の逆行1週間前は11月26日（日曜日）。東京市場は23日が祝日なので、24日、もしくは27日から相場展開に注意したい。同様に、逆行中間点の12月12日（日本時間では13日）、逆行が終了（順行）する同月22日（日本時間23日）、シャドウ抜けの2018年1月11日も転換ポイントとして注意しておくべき時間である。私自身が描くジオコスマティック的に理想な日経平均株価の展開は、先週からの反騰が12月1日か4日に終了し、シャドウ抜け付近で節目となる安値をつけるパターンであろう”。この見方に変更はない。恐らく、前週から先週にかけての流れを引き継いだ相場は、今週末から来週頭にかけて反転ポイントを迎える日米株式、NY原油、ドル指数、ドル円、ユーロ／ドル等は今週反転するかも知れない。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 11月27日（月） | ダミシが多い |
| 11月28日（火） | トレンド不発 |
| 11月29日（水） | 変化日前後 1営業日 |
| 11月30日（木） | 逆張りが有効 |
| 12月1日（金） | 金が次第に動意付く |
| 12月2日（土） | 買う人には百の目が必要だが、
売る人は一つの目で十分 |
| 12月3日（日） | 水星逆行始まる |

フォーキャストのその先へ

【2018年新春勉強会】 —2018年、如何に儲けるか—

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。2018年最初の勉強会では、前年の分析に加えて、2018年の重要な相場サイクル、天体位相等、複合的な解説を実施！恒例の新年会も行います。

講師	日時	会場
<第一部> 何よりも早い「フォーキャスト2018」ポイント解説	1月27日(土)13:00～19:00	貸会議室日本橋清新丹
株式会社投資日報社 林 知久		東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階
<第二部> 第一四半期、儲けの機会を探る		<一般> 14,040円(税込)
株式会社投資日報社 代表取締役 鎌木 高明		<MMMA会員> 10,800円(税込)

※お席に限りがありますのでお早めにお申込みください。
※お席に勝手な人からお金の確認をもって参加登録されたとさせていただきます。
※お席元主されたお客様には1ヶ月前までに受講票にて室内地図をお送りします。

■ 詳細・お申込みは[こちらから](http://www.toushinnippou.co.jp/)
(株)投資日報社 電話：03-3669-0278 東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階

<http://www.toushinnippou.co.jp/>

<セミナー>内【2018年新春勉強会】よりお申込みください

Investment Daily Report 4